



地域の歴史を学ぼう!

後三年合戦金沢柵公開講座

3月18日に美郷町公民館で後三年合戦金沢柵公開講座（主催：横手市教育委員会、共催：美郷町教育委員会）が開かれました。後三年合戦は、前九年合戦で手柄のあった清原氏一族による内紛がもとになった戦いで、決戦場となった横手市金沢地区の金沢柵のほか、町内にも合戦に関連すると思われる遺跡が点在しています。講座では、両市町の教育委員会による遺跡調査報告や学識者を交えたパネルディスカッションが行われ、町内外から訪れた約280名の受講生はメモを取るなど熱心に耳を傾けていました。

自慢ののどと踊りを披露

うたとおどりのフェスティバル

3月25日に美郷町南体育館で第23回全県素人うたとおどりの美郷フェスティバル2012が開催され、カラオケの部、新舞踊の部、民謡の部の3部門で出場者が自慢の「うたとおどり」を披露しました。会場を訪れた観衆は、出場者の日頃の鍛錬の成果に惜しみない拍手を送っていました。町内の入賞者は次のとおりです。

【カラオケの部】	大会特別賞	西鳥羽和幸さん
【新舞踊の部】	優勝	若畑 邦子さん（最優秀賞）
	準優勝	畑山 早子さん
	AKT特別賞	佐藤シエ子さん
【民謡の部】	AKT特別賞	高橋 金男さん



美郷町商工会・美郷町企業連携協議会

新入社員の集い

3月29日に名水市場湧太郎で美郷町商工会と美郷町企業連携協議会による新入社員の集いが開催され、この春、町内企業に就職した12事業所30名の新入社員と関係者などが出席しました。

式では、近藤道哲町商工会会長と齊藤伸英町企業連携協議会会長の激励のあいさつに続き、新入社員を代表して齊藤剛さんが「社会人としての責任の重大性を認識し、これからは仲間とともに企業の繁栄に貢献していきたい」と抱負を述べました。式に続いて、松田町長の講演と北都銀行人事部の伊藤末子さんによるマナー研修が行われました。

火の取り扱いにご注意を!

春の火災予防運動

春の火災予防運動が、4月1日から4月7日までの7日間実施されました。運動初日にあたる1日にはポンプ中継放水訓練が行われ、消防技術の向上に取り組みました。

放水訓練終了後は、町消防団員が3地区に分かれて防火広報パレードを行い、火の取り扱いについて注意するよう各家庭に呼びかけました。



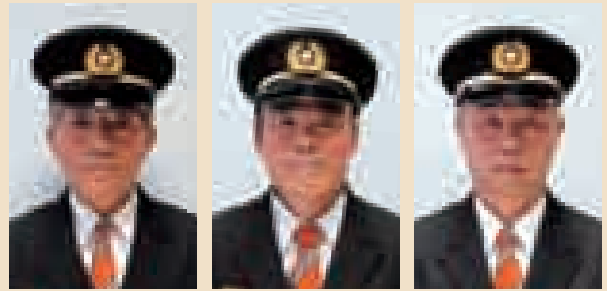
安全・安心な町に!

暴力団排除に関する合意書締結

4月10日に町と大仙警察署による「暴力団排除に関する合意書締結式」が行われました。町では4月1日より暴力団排除条例が施行されており、暴力団関係者が町の事業に関与することなどが禁止されています。

式では松田町長と渡部信雄大仙警察署長が合意書に署名し、地域住民の安全・安心な生活の実現に向けて、町と警察が相互に連携・協力していくことを確認し合いました。

美郷町消防団長に高橋正尚さん
副団長に高橋勝利さん、高橋英喜さん



副団長
高橋英喜さん
(天神堂)

副団長
高橋勝利さん
(七滝)

団長
高橋正尚さん
(元本堂北部)

就任のあいさつ

本年四月、前団長三浦氏の後を受け美郷町消防団長を拝命いたしました。前団長には地域の融和と均衡のとれた消防力の確保や発展にご尽力いただき、団員一同深く感謝しているところで

さて、この度、団長という重責を担うにあたりその職責の重さを改めて痛感するとともに、先人たちの功績の大きさに敬意を表する次第であります。つきましては身に余る大役ではございますが、団員各位のご協力を得ながら「安全で安心できるまち」の一助となりますよう美郷町消防団一致団結して前進して参りますので、町民の皆様の一層のご支援をお願いし、就任のご挨拶といたします。

美郷町消防団長 高橋正尚

一石二鳥への期待



美郷中学校の入学式で
祝辞を述べる松田町長

美郷町長 松田知己

風

過日の爆弾低気圧、大変でした。平成3年の台風19号に次ぐ強風のように、町内でも多くの被害が発生しました。自然が持つ怖い一面を改めて認識です。被災されましたみなさんには、心からお見舞いを申し上げます。その傷跡がまだ残っている4月中旬、やはり家屋被害を受けた町内酒造会社に、古川元久国家戦略担当大臣がいらつしやいました。酒造会社社長が大臣と交友関係があり実現した訪問で、私も町を代表する立場でお迎え

しましたが、その折に、大臣からは勇気が湧いてくるお話をいただきました。現在の日本は申すまでもなく苦境です。その打破には、各分野で新たな取り組みが必要なのとも申すまでもありません。そんな中、大臣は現在、日本酒を「国酒」と位置付け、積極的に海外に打って出る構想を持っているとのこと。ワインと同様に、小さい蔵元でも「おいしい本物の日本酒」を海外に輸出し、生産現場に活気を生ませたい、そして日本酒の名声を世界に広めたいとのこと。さらに海外からの観光客には、そうした蔵元を訪ねていただき、国内各地の観光振興に繋げたい構想のようです。残念ながら成果が見えてこない国政の中で、この新たな国家戦略には期待したいと思

います。一方、町では今年から「地産外商」を進めます。その趣旨は一緒です。地元の良いものを町外で商う。その結果、農産加工品や日本酒、美郷まんまや美郷たぬ中など特産品の生産に活気が生まれ、さらに消費者が「よし、生産地に行ってみるか」となれば観光客の増加です。だから私は、大臣のお話に勇気が湧いてきたのです。しかし、この取り組みには絶対条件があります。「生産品がいいものであること」、そして「商いに生産者が責任を持つこと」です。この条件を工夫と努力で乗り越えながら、地産外商にみなさんで取り組み、みなさんの美郷をさらに活気ある町にしていくたいものです。地産外商を進めていきたい私は、今日も右手に箸、左手にお猪口を持ち、地元産品の消費に努力です。なぜなら、「地元の人間が地元産品に蘊蓄を語れなかつたらだめでしょう」と思うからです・・・左手の言い訳ですね。